

令和4年度事業実施報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

令和4年度の協会運営は、令和4年の定時社員総会で承認された事業計画と予算に則り、公益社団法人として、代表理事会長・理事副会長のもと理事会の執行機関として8つの「委員会」を設置し、各「委員会」ごとに責任を持って事業を推進し、全体を調整する機関として「総括運営委員会」を置き、当協会の理念に基づき、多岐にわたる協会の事業を具体的に効率よく実施し、収支ともほぼ予算内で行いました。新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、各事業についてイベント開催は通常ベースに戻りつつあり、感染症対策をしっかりと行いながら実施致しました。

A. 公益事業

1. 日本写真協会賞の令和4年度表彰及び令和5年度選考 【表彰委員会】

○令和4年度表彰式、展示会の実施

・令和4年度日本写真協会賞は、我が国の写真文化活動に顕著な功績が認められた内外の個人・団体をはじめ、前年に優れた作品・評論を発表された方々の中から令和4年2月25日に各賞の受賞者を選出し、3月25日理事会で決定し、3月31日にカメラ記者クラブ・関係諸機関・一般紙報道機関や公共機関にニュースリリースを配布して、対外発表しました。その後、6月1日に表彰式ならびに受賞者祝賀パーティーを笹川記念会館(三田)で行う予定でした。表彰式は出席を関係者に限定して開催しましたが、受賞者祝賀パーティーは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止としました。なお5月27日～6月2日に予定した受賞作品展は、富士フィルムフォトサロン東京(六本木)で計画通り開催しました。

○選考委員 (敬称略、五十音順)

大西みつぐ(写真家)、河野和典(フォトエディター)、白山真理(写真史家)、菅沼比呂志(インディペンデントキュレーター)、広川泰士(写真家)

○令和4年度受賞者(敬称略)

- ☆作家賞： 今 道子
- ☆新人賞： 田川基成
- ☆国際賞： 太田菜穂子、榮榮 & 映里
- ☆功労賞： 土田ヒロミ、株式会社便利堂
- ☆学芸賞： 甲斐義明、長島有里枝

○令和5年度受賞者の選考

・令和5年度日本写真協会賞の選考は、恣意的な選考に陥らないよう、会員及びノミネーターから昨年末までに候補者の資料を広く収集し、令和5年2月15日、5名の選考委員による「選考会」を開催し、作家賞1名、新人賞1名、国際賞2名、功労賞2名、学芸賞2名の受賞者を内定致しました。
これを令和5年3月22日に理事会で承認決定し、3月31日に対外発表しました。

○選考委員 (敬称略、五十音順)

楠本亜紀(評論家・キュレーター)、白山真理(写真史家・一般財団法人カメラ博物館調査研究部長)、菅沼比呂志(インディペンデントキュレーター・東京工芸大学芸術学部写真学科教授)、瀬戸正人(写真家)、広川泰士(写真家)

○令和5年受賞者及び受賞理由(敬称略、五十音順)

☆作家賞： 笠井爾示

10代をドイツ・シュトゥットガルトで過ごした作家は、一時帰国した際、母の病気を知り日本に留まる

決意をした。自身も大病を患い失意の中で写真と出会い、独自の視線で日常を切り取ってきた。50歳を目前に、シュトゥットガルトを再び家族で訪れた旅の中で、初めて母を撮影し、写真集『Stuttgart』としてまとめ上げた。作家が新境地を切り拓いた作品に対して

☆新人賞： 中井菜央

雪のある風景に興味を持った作家は、新潟県津南町で、湿り気のある重い雪が作り出す独特の雪景色に惹かれた。更に毎冬、廃校に住み込み撮影する中でその地の人々と暮らしに興味を持ち、発展していった。展示を重ねる度に作家の視界の広がりと思いの深化が現れた、写真集『雪の刻』及びその前後に開催された計7回の展示活動に対して

☆国際賞： 石渡真弥

1989年に総合メディアプロダクションのRAMを設立し、1990年「日本の現代写真3人展」(フォトフェスト'90)、2002年「岡上淑子写真展」(ヒューストン美術館)など、多数の写真展・写真集出版のコーディネイトを手掛け、海外に向けた日本の写真及び写真史の発信に重要な役割を担ってきた。これら多年の功績に対して

☆国際賞： KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭

東京集中の既成メディアのあり方に疑問を感じた照明家 仲西祐介氏と写真家 ルシール・レイボーズ氏が、東京以外の場所から写真を通して社会問題を世界に発信するべく KYOTOGRAPHIE を立上げ、2013年に第1回を開催した。以来、毎年規模を拡大し、2023年は11回目となる。京都から写真を通して世界へ発信し交流し続けている功績に対して

☆功労賞： 百々俊二

百々俊二氏は、自身の「写真の力」は言うに違わず、写真指導者として、次世代の若き写真家と真摯に向き合い、切磋琢磨をともにして、一人ひとり強固な写真家に育て上げてきた。同時に教育者として、写真を通じてどのように生き、写真に対峙するのかを問い続けてきた。この多年に亘る功績に対して

☆功労賞： 写真新世紀

1991年にスタートし、1,126組の受賞者を輩出したキヤノン株式会社主催の写真コンテスト「写真新世紀」が、2021年に30年の活動を終えた。若者たちの写真表現を多様化、拡張させ、その可能性に挑戦する新人写真家の発掘・育成に大きく貢献した。この多年に亘る功績に対して

☆学芸賞： 大山 顕

著書『新写真論 スマホと顔』において、撮影された写真だけでなく、スマホ・SNS・AIなど写真の周りで起こりつつある出来事すべてを「写真」の内部で考えようとする論考は、現代における写真とは何かを考える上で示唆に富む。この労作に対して

☆学芸賞： 雑誌『写真』編集部 (代表：村上仁一編集長)

ここ3年程のパンデミックの中で、写真界も歴史ある写真誌や有名な写真賞が無くなるなど、大切な光を見失うような経験をした。そのような中、今の日本における写真表現を幅広く紹介し、未来に向けた発信を掲げる雑誌『写真』の創刊は、まさに一筋の光である。日本写真文化の質の高さと深い視点に立ち、写真の持つポテンシャルを追及する編集姿勢に対して

2. 「東京写真月間2022」の開催と「大阪写真月間2022」への協賛 【写真月間委員会】

「東京写真月間2022」は、コロナ禍の影響が緩和される傾向の中で、ほとんどの事業を5月18日からスタートしました。今年は中国国交樹立50周年の節目の年にあたり、2020年度に開催予定ながらコロナ禍の影響で延期していた国際展「アジアの写真家たち中国-江蘇省-」展を、3年ぶりに国内企画展と併催で実施。6月1日「写真の日」の式典は、日本写真協会賞表彰式と東京写真月間オープンセレモニーを関係者のみにて

実施。6月28日に公募展「写真の日」記念写真展の最終日を迎え、東京での主な行事を終了することができました。その後、長野県小諸市、福島市、北海道東川町、大阪市での公募展を中心とした巡回展を実施、12月15日に「東京写真月間2022」のすべての行事を無事終了しました。尚、北海道東川町の巡回展では、国内企画展を同時併催しました。

○国内展「地域との共生」

国内企画展は、このところSDGs(2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標)を意識した生き方を、様々な分野や場所で求められている意識を踏まえ、地域で様々な取り組みを表現する写真展を開催しました。テーマ「地域との共生」と題して、会員の皆様へ、国内企画展では初めての公募形式で出展者を募りました。お蔭様で全国の会員から多数のご応募を頂いた中から、実行委員会と関係者による選考の結果、8名の出展者が選出され、5会場にて写真展を開催しました。

内倉真一郎展「Collection-Miyazaki」

キャンノンオープンギャラリー1 5月18日～6月10日

元は生活圏で使われ捨てられた「ゴミ」が様々な場所を経て、別な姿に形を変えていることに不思議な衝動にとらわれた作家が、その「ゴミ」の持つメッセージ性に着眼し、最後の姿をポートレートシリーズにした作品展で、黒バックを背景に造形美を感じさせる写真は、永遠に残された「生命体」＝ゴミは大切な宝物と表現したとしている。元来、人間が生み出した遺物であるが、見るものにとって考えさせられる作品となっていた。

浅野久男展「"Kai"を探して。A Journey to Find "Kai" in Hokkaido」

エプソンスクエア丸の内 エプサイトギャラリー 5月27日～6月8日

現在の北海道は、札幌を除く地域において、人口の減少と経済の縮小が急速に進行しているのを作家は北海道を旅しているときに感じる。SNSなどで溢れかえる「絶景」と称えられる北海道の写真と現実とのギャップを感じつつ、作家はごくありふれた光景を旅の途中に記録した作品で、アイヌ民族に「カイ」という言葉＝「この土地に生まれたもの」として、北海道出身の作家はこのKaiを探す旅の写真を通して、その土地にある独自の共生を表現していた。

太田昭生展「豊島30年”産廃からアートへ”」

エプソンスクエア丸の内 エプサイトギャラリー 5月27日～6月8日

国内最大の産廃不法投棄事件と言われる「豊島問題」は、香川県小豆島に隣接する豊島で1990年代に起こり、国内に大きな反響を呼んだ。2000年に島民が一致団結し原状回復を調停で勝ち取り、長い道のりを経て現在の姿になってきている。「産廃の島」と称された豊島は、その後「アートの島」へと変貌しつつあり、瀬戸内国際芸術祭の会場ともなってきた。作家がその30年間の記録を定点観測で捉えた作品で、長い目で捉えてきた変節を端的に表現することにより見るものに共感できる作品であった。

横田國平展「心の故郷 中越後」

ニコンプラザ新宿 THE GALLEY 5月31日～6月13日

新潟県中越地方の山村風景とそこに暮らす人々の営みを撮影し続ける作家は、美しい棚田や緑豊かな山里の風景が点在する世界とは裏腹に、豪雪地帯に暮らし過疎化と高齢化が進んでいる人々の日常の生活風景を記録することに主眼をおいた作品で、近いがゆえにえ得てして埋没してしまう日常の風景を丹念に構成した美しい作品で、観るものを魅了していた。

櫻井靖彦展「王滝・三岳 三十六景-愛知用水ふるさと紀行」

OM SYSTEM GALLERY (旧オリンパスギャラリー) 6月2日～13日

愛知用水は源流である長野県木曾郡大滝村と木曾町に跨る「牧尾ダム」から始まり、愛知県の知多半島に及ぶ200キロ以上の水の旅である。知多に住む作家が用水の水源地の木曾に10年前から撮影に通い、地球温暖化の兆しを感じながら四季折々の美しい風景を捉え、地域のまさに水との共生を感じる作品に関心は高かった。

風間健介展「夕張」(撮影：風間健介、所蔵：幸村千佳良)

OM SYSTEM GALLERY (旧オリンパスギャラリー) 6月2日～13日

長年全国を旅した後 1989 年北海道夕張市に移住し、以後 16 年間に亘り夕張など炭鉱遺産を撮影した風間健介(故人)の作品である。かつて栄えた夕張の雪景色や街並みを捉えた昭和の原風景といえる作品となっている。この写真展は、風間健介遺作展実行委員会事務局 幸村千佳良氏(写真家・成蹊大学名誉教授)の所蔵品から構成されたもので、栄枯盛衰を象徴し、人間社会の未来を彷彿させる作品となっていた。

松本佳子展『ハレ』と『ケ』の日はさま 八戸えんぶり」八戸地方に春を呼ぶ豊年祈願

ピクトリコショップ&ギャラリー 6月14日～25日

東京生まれ東京育ちの作家は北国に郷愁を感じ、青森県八戸地方に伝承されている春を呼ぶ豊年祈願祭「八戸えんぶり」に出会い、その魅力に引き込まれ毎年訪れている。昔、天明の大飢饉でこの地方は冷害に襲われ大凶作が続いた悲惨な歴史があり、「えんぶり」は単なる豊年祭ではなく鎮魂祭の儀式としての意味合いがある。そんな「えんぶり」に街全体が沸く姿を、女性ならではの感性で柔らかに捉えた作品に見入っていた来場者が多く見受けられた。

長島敏春展「逗子 共生と時間」

ピクトリコショップ&ギャラリー 6月14日～25日

水中写真家である作家は、逗子の海でサンゴ礁の素晴らしさに気づいた。サンゴ礁は、サンゴと水中の生きものと共生している。更に逗子の森を撮り始め、そこにも自然と生きものの共生をみる。鎌倉に近い近辺の山や日本最古の港や海岸線も撮影対象とした作品となっている。作家は、写真を撮ることはあらゆる共生を認識し生命との関係性を知ること、歴史を感じながら未来を創造することであるという。逗子の海中や自然と生きもので構成された作品は見応えがあり、関心は高かった。

○国際展「アジアの写真家たち 2022 中国」-江蘇省-

2020 年に計画し新型コロナウイルスの影響で 2 年延期となっていた「中国 - 江蘇州」を開催しました。2022 年は日中国交正常化 50 周年の節目の年を迎え、記念すべき機会として開催に踏み切りました。例年は海外との写真文化交流の目的で出展作家の中から数名の招聘をしていますが、ゼロコロナ政策を推進する中国からの招聘はかなわず、16 名の出展作家による写真展のみを 6 会場にて開催しました。人口約 8500 万人を要する江蘇省の、人や生活・風物・伝統文化などの写真に来場者は魅了されていました。

出展作家名及び日程と会場

- 1) キヤノンオープンギャラリー1 5月18日～6月10日
展示写真家：周葉(1名)
- 2) ソニーイメージングギャラリー 5月27日～6月2日
展示写真家：朱漢挙 / 石菁 / 楊国美 / 楊天民 / 湯徳勝(5名)
- 3) プレイスM 5月30日～6月5日
展示写真家：榮毅清 / 許益民 / 金壽彭 / 屠国嘯 / 鄒榮興(5名)
- 4) ニコンプラザ新宿 THE GALLERY 5月31日～6月13日
展示写真家：韋鳴(1名)
- 5) LUMX BASE TOKYO 6月3日～6月19日
展示写真家：王京 / 謝松(2名)
- 6) 新宿 北村写真機店 6月4日～6月10日
展示写真家：張炎龍 / 陸啓輝(2名)

また、「2022 年日本・南西アジア交流年」認定事業特別展として、国際展「アジアの写真家たち」で 2004 年より開催した南西アジア各国(バングラデシュ・インド・ネパール・スリランカ・パキスタン)が 2022 年日本・南西アジア交流年(50・70 年など区切りの年)にあたり、peace of children pray for peace と題して写真展を 6/23～28 にヒルトピアアートスクエア C ギャラリーで開催しました。日本在住の各国の人たちの来場も多く見られ、会場でのポストカードや各国民芸品の販売もあり賑わいをみせました。

○第18回公募展「写真の日」記念写真展

ヒルトピアアートスクエア（新宿） 6月23日～28日

応募人数747名、応募枚数1,911点の中から外務大臣賞・環境大臣賞・優秀賞・協賛会社賞(30社)合計162点を展示。

特別協賛：YUKI TORII、久里洋二(作品提供)、東レ㈱

選考委員：柏崎秀実、菊池哲男、(公社)日本写真協会 表彰式：中止

また、会期中の6月25日には日本写真著作権協会との共催で著作権セミナーを実施し、コンテスト参加者から大変喜ばれました。

特別イベント：「写真の著作権、肖像権」－聞いてみよう！ルールとマナー－

講師：写真家 加藤雅昭

巡回展：小諸市立小諸高原美術館市民展示室 2022年8月9日～8月21日

福島市写真美術館 2022年9月17日～9月25日

「写真の町」東川町文化ギャラリー 2022年11月7日～11月23日

富士フィルムフォトサロン 大阪 2022年12月9日～12月15日

第18回公募展「写真の日」記念写真展では、この2年間のコロナ禍にあつてなかなか自由に撮影出来ない日々が続く中で、1,900点を超える作品が集まりました。コロナ禍の影響で旅や祭りをテーマにした作品が減りましたが、日常が当たり前でなくなったことで、見落としていた日常風景や家族・友人を撮影した作品、身近な環境を撮影した作品が増えたように思います。この公募展を楽しみにされている応募者も多く、引き続き継続していく予定ですが、表彰式の開催や地域での巡回展の開催がコロナ禍の影響で延期・中止となる状況が続きました。

○「1000人の写真展《わたしのこの一枚》」 【中止】

1000人の写真展「わたしのこの一枚」は参加型の写真展で、一般の写真愛好家からプロ写真家まで、一般の写真展では見られないこだわりある写真作品を展示していますが、コロナ禍の影響により中止としました。

○日本写真協会賞受賞作品展

日本写真協会賞受賞作品展は5月27日～6月2日富士フィルムフォトサロン東京(六本木)で開催しました。

○東京写真月間2022 後援・協力事業

① 第3回「親子写真まつり」写真展

会期：7月2日～8月5日 会場：日本外国特派員協会内にて

(写真家ブルースオズボーン氏による主催「親子の日普及推進委員会」)に後援し、日本の写真家で協会会員の中条望さん、「アジアの写真家たち2019パキスタン」からの作品で3名の写真家を紹介しました。

② 第8回高校生国際交流写真フェスティバル2022 (HIGASHIKAWA ユースフェス)

世界各国の高校生を一同に集めた写真フェスティバル。コロナ禍の影響で国際間の交流が難しくなり延期となりました。尚、「HIGASHIKAWA ユースフェスフォトコンテスト2022」として世界中の高校生を対象としたWEBフォトコンテストは共催事業の協力をしました。

○祝賀パーティー 【中止】

6月1日に笹川記念会館レストラン(三田)にて、日本写真協会賞受賞者祝賀会、東京写真月間オープニングセレモニーを開催予定でしたが、コロナ禍の影響により中止としました。

○図録の発行

「東京写真月間 2022」を総括した図録を作成して、協力頂いた関係機関に配布するとともに、関係各国大使館や図書館、美術館、ギャラリー、行政府等の公共機関にも無料提供しました。また、「写真の日」記念写真展入賞者等購入を希望する写真愛好家には、一冊 2,000 円で頒布しました。

この「東京写真月間 2022」の開催にあたり、外務省・環境省・文化庁のご後援、各企業・団体からのご協賛、ご協力を頂きました。

○「大阪写真月間 2022」を共催 (500,000 円を協賛)

大阪の写真文化向上を目指す「大阪写真月間」は今年で 21 年目を迎え、下記内容の写真展等を実施しました。

- 1) 写真家 150 人の一坪展 5 月 27 日～7 月 1 日 4 会場 参加 116 名
α プラザ(大阪) ギャラリースペース、キヤノンギャラリー大阪、富士フィルムフォトサロン 大阪、
ニコンプラザ大阪 THE GALLERY
- 2) 大阪写真月間ハイスクールフォトアワード 2022
6 月 10 日～16 日 富士フィルムフォトサロン 大阪 参加 54 校 370 作品
日本写真協会会長賞を設定：八代白百合学園高等学校 濱田夏姫氏に授与
- 3) 写真展「私のこの一枚」 6 月 8 日～13 日 イロリ村[89]画廊 235 作品
- 4) 記念シンポジウム「美術館と写真 -大阪中之島美術館のコレクションを中心に-」
写真評論家 飯沢耕太郎氏、大阪中之島美術館館長 菅谷富夫氏
6 月 11 日 中之島図書館別館多目的スペース 3 参加 56 名

3. 国際交流活動 【国際交流委員会】・【写真月間委員会】

- ・前述の通り、日中国交正常化 50 周年を記念して国際展「アジアの写真家たち 2022 中国-江蘇省-」を 5 月 18 日～6 月 19 日の期間で都内 6 か所の会場にて開催。同じく「2022 年日本・南西アジア交流年」認定事業特別展として、南西アジア各国 (バングラデシュ・インド・ネパール・スリランカ・パキスタン) が 2022 年日本・南西アジア交流年 (50・70 年など区切りの年) にあたり、peace of children pray for peace と題して写真展を 6/23～28 にヒルトピアアートスクエア C ギャラリー開催しました。
- ・日本・モンゴル外交関係樹立 50 周年記念行事へ参加。10 月 5 日～10 日 ウランバートル市にてモンゴル写真家協会より、当協会と写真の町・東川町 (前松岡市郎町長) に招聘依頼があり参加。東川町から市川副町長、職員 2 名、東川町高校生 3 名、当協会から吉野弘章理事と脇田美幸写真月間委員が出席。期間中、50 周年記念事業「モンゴル・日本学生共同写真展 Oneness」(東川町高校生参加・モンゴル国立近代美術館にて) の開会式に出席し、吉野理事からスピーチして頂きました。また市や政府関係者など多くの要人と交流し、当協会の事業などを紹介して頂きました。更に、モンゴル写真家協会と当協会とのパートナーシップの調印式にも臨んで頂き、写真を通じた両国間の親善と文化交流に貢献して頂きました。
- ・ルーマニア・日本国交樹立 100 周年記念写真展「日本とルーマニアの人々と風景」
&みやこうせい写真展 -ルーマニア賛歌-
会期：10 月 6 日～11 日 会場：ヒルトピアアートスクエア (新宿ヒルトン東京 B1)
主催：日本写真協会・国際交流委員会 共催：日本・ルーマニア協会
後援：外務省 ルーマニア大使館 協力：武蔵野市・日本ドナウフォトクラブ他
前年 2021 年 12 月 10 日～2022 年 1 月 9 日にルーマニア・オラデア EURO FOTO GALLERY にてルーマニア 50 点、日本 50 点 (PSJ 会員作品含む)、合計 100 点の作品を展示し、今回、当協会が主催し日本開催となりました。尚、日本開催では、エッセイストで写真家、ルーマニアの写真第一人者である みやこうせい氏の展示を収蔵している武蔵野市の協力のもと同時開催しました。写真展開催の前日 10 月 5 日夕刻より関係者が集まり、オープニングセレモニー (会場での飲食なし) を開催。多くの来場者で賑わい、主催者、ルーマニアド

ランガ大使、猪谷日本・ルーマニア協会理事長、ルーマニア出展作家代表のステファン・トット氏などからスピーチをして頂きました。会場ではルーマニアのワインや民芸品を販売、写真展開催中も多くの来場者があり盛況裡に終了しました。また、来日ルーマニア写真関係者との交流を図り、親交を深めました。

巡回展：期間：10月22日～10月27日 会場：沖縄県那覇市 沖縄タイムス社 ロビー特設会場にて

・日本写真協会賞新人賞受賞作品の海外での巡回展は、新型コロナウイルス感染の影響によりオファーが無くなりました。

4. 写真・映像教育の推進 【写真・映像教育推進委員会】

平成18年3月にスタートした写真・映像教育の推進事業は、子供達に写真の楽しさ、面白さなど感動と親しみを体験してもらうことを目的に、「ピンホール写真体験教室」ならびに「デジタル写真体験教室」を実施しています。令和2～3年度は、コロナ禍の影響により実施できませんでしたが、令和4年度に入り、各学校・教師等からの実施要望が相次ぎ、感染症対策に配慮しながら実施しました。

令和4年度実施状況

令和4年度トータルとしては、13ヶ所、465名が参加しました。

「ピンホール写真体験教室」：7ヶ所 参加人数 189名

「デジタル写真体験教室」：6ヶ所 参加人数 276名

■令和4年度 写真体験教室実施状況

	会場・主催者	内容	開催日	対象	参加人数
1	atelier Mio スタジオ	ピンホール	4/1-2	小1～大人	15
2	atelier Mio スタジオ	デジタル	4/2-3	小1～小6	14
3	酒田市土門拳記念館	ピンホール	7/24	小1～中1親子	75
4	秦野市立本町公民館	ピンホール	7/31	小1～小6	13
5	藤沢市立御所見公民館	ピンホール	8/21	小1～中1親子	30
6	神奈川県立大船フラワーセンター	ピンホール	8/27-28	小1～大人、保育園児	16
7	※京都市立朱雀第三小学校(1)	デジタル	10/11	小3、小4 (3クラス)	85
8	※京都市立朱雀第三小学校(2)	デジタル	10/12	小3、小6 (3クラス)	83
9	※京都市立朱雀第三小学校(3)	デジタル	10/13	小5 (2クラス)	55
10	NPO 法人くにたち農園	ピンホール	10/30	小1～大人	20
11	海老名市立東柏ヶ谷小学校体験授業	デジタル	11/8	小5	18
12	海老名市立東柏ヶ谷小学校体験授業	ピンホール	11/15	小6	20
13	横浜国立相沢小学校個別支援学級	デジタル	1/31	小1～小6	21
				合計	465

※文化庁主催事業「文化芸術による子ども育成推進事業」として実施

1) ピンホール写真体験教室

写真の歴史、ものの映るしくみ等を説明し、各自ピンホールカメラを組み立て、光の性質を理解しながら銀塩方式の写真体験をしてもらいました。東京、神奈川など首都圏の教育支援事業としてスタートしましたが、写真・映像教育への関心は着実に広がりを見せています。首都圏以外では、酒田市土門拳記念館で教室を実施しました。

2) デジタル写真体験教室

写真の原理は勿論ですが、物事をよく観察することの大切さや、写真の持つ多様な力の中から自分の気持ちを表す自己表現力・コミュニケーション力を如何に引き出すかに重点を置いて実施しました。併せて、断りもなく他人の顔を写さないとか、花壇等に勝手に踏み込まない等の撮影マナーや、著作権、肖像権等の法的権利についてもその重要性を学んでもらいました。

5. 年報・会報等の発行 【出版広報委員会】・【写真月間委員会】

1) 年報

「不特定多数の利益の増進に寄与する公益事業」として認定された「日本写真年報」は、2013年版より、「日本写真年鑑」と題し、従来の写真業界の年報としての機能に合わせ、年間を通じた写真界の幅広い情報を掲載してまいりましたが、2021年版からは時代に即した内容精査を行い、従来の写真業界の年報としての機能に重点化し「日本写真年報」として新たに発行することとし、10月に発行・配布を行いました。

2) 東京写真月間図録

「東京写真月間」の開催にあたって、事業内容を集約した図録を製作・頒布しました。

B. 共益事業

1. 会報の発行【出版広報委員会】

令和4年度は、事業計画通り年2回、10(秋・483号)・3月(春・484号)を発行し、各時点における協会及び会員の活動や今後の計画、写真文化情報などを紹介しました。また、6月には東京写真月間2022図録を全会員・賛助団体に郵送しました。

・主要掲載記事

483号：「国立劇場の閉場」「2022年日本写真協会賞表彰式」「田沼武能先生を偲ぶ」他

484号：「東條卯作と東條會館 写真館のあゆみ」「2022年日本モンゴル外交関係樹立50周年記念」他

2. 永年継続会員表彰制度の検討【総務委員会】

当協会に長く継続して在籍頂いている個人正会員に対する新たな表彰制度（永年継続会員表彰）の創設について検討を行ないました。令和5年度より実施してまいります。

C. 法人運営事業

1. 公的機関が主催する写真コンテスト・イベント等への協力【総務委員会】・【写真月間委員会】

公益社団法人移行後、公的機関からの写真コンテスト・イベント等の相談及び協力依頼に対応しています。

1) 第38回「写真の町・東川町フォトフェスタ」へ協力

北海道東川町主催の第38回「写真の町・東川町フォトフェスティバル」(7月30日～8月30日)を後援しました。

2) 第2回「無電柱化の日」フォトコンテストへ協力

東京都主催の「無電柱化の日」フォトコンテスト(応募:7月1日～9月30日、表彰式:11月10日)に後援し、審査員を紹介(当協会会員 安珠氏・黒田智之氏)するとともに、フォトコンテスト告知に協力しました。

3) 総務省より、統計局発行書籍の掲載写真へ協力

総務省統計局発行「世界の統計2023」の表紙に、2022年日本ルーマニア外交関係樹立100周年記念写真展展示作品より、ルーマニア写真家の写真(世界遺産ペレシユ城)が採用されました。

2. 社員総会・理事会・総括運営委員会の開催【総務委員会】

4月22日の第1回通常理事会において、令和3年度事業報告、貸借対照表および損益計算書の承認、定時社員総会開催内容を決定しました。6月16日に令和4年度定時社員総会を開催、議決権者1,404名、議決権行使851名(出席15名を含む)で令和3年度事業報告、令和4年度事業計画・予算を報告、令和4年度決算、役員辞任に伴う新理事選出、役員報酬総額を決定。総会終了後、第2回通常理事会を開催しました。

令和5年3月22日に第3回通常理事会を開催。令和5年度事業計画、令和5年度予算を承認しました。

また、5月17日、7月19日、11月15日、1月24日、3月14日の計5回、事業報告及び財務状況を代表理事会長、理事副会長に各委員会委員長が報告する総括運営委員会を開催しました。

3. コンプライアンス【コンプライアンス委員会】【総務委員会】

令和5年3月7日 コンプライアンス委員会を開催（尾畑業務執行理事、庄業務執行理事、松本理事副会長、井沢理事）し、令和4年度の公益事業に関し、コロナ禍において適切な運営ができたかを点検しました。また、令和4年4月1日から義務化された「改正労働施策総合推進法」に基づく「パワーハラスメント防止措置」を受け、運用開始したコンプライアンス・ヘルプラインの状況につき確認を行いました。

4. 展覧会等の後援 【総務委員会】

当協会は公的機関や学校教育機関、マスコミ、写真関係団体等が主催し、内容が文化、教育、国際交流に寄与する写真展等に対して後援・協賛・協力を行っていますが、令和4年度は以下の催事をバックアップしました。

	申請者（≠主催者）	写真展名	会期・場所
1	フォトグループいぶき	第11回「四季のいぶき」展	2022年4月29日～5月5日 富士フィルムフォトサロン東京
2	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら実行委員会	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら2022	4月1日～2023年3月31日 相模原市民ギャラリー他
3	主催：(株)プロメディア	PHOTONEXT2022【協力】	期間：6月7日～8日 会場：パシフィコ横浜A・Bホール
4	日本写真学会、写真感光材料工業会	PHOTONEXT2022 技術アカデミー【協力】	6月5日 パシフィコ横浜
5	フォト彩クラブ	渡邊幸江（蔡瑩）写真展「風塵歲月」	5月19日～23日 上田市立美術館トミュージ
6	NPO東京画	写真誕生 200周年記念企画「WANDER-Mt. FUJI」【顧問】	2024年～2025年国立新美術館、パレ・ド・トーキョウ（フランス）
7	公益社団法人日本広告写真家協会	第13回「全国学校図工・美術写真公募展」	7月11日～11月10日
8	主催：（一社）東京都民間保育園協会	第5回TOKYO保育フォトコンテスト「TOKYO保育フォト展」	募集：6月1日～7月29日、展示：11月アーツ千代田3331他巡回
9	日本山岳写真協会	2022年日本山岳写真協会展	9月9日～9月17日 東京都美術館他巡回
10	NHK学園	第5回NHK学園「四季の写真展」	8月24日～28日 神奈川県民ホールギャラリー
11	西多摩百景写真展実行委員会	第2回oh！多摩フォトコンテスト	応募期間：4月20日～5月20日 展示：都庁内観光情報センター他
12	日本光画会	第57回日本光画会写真展	12月20日～令和5年4月16日、大阪府立江之子島文化芸術創造センター 他巡回展
13	東川町写真の町実行委員会	第38回東川町国際写真フェスティバル（フォトフェスタ2022）	7月26日～8月30日 東川町町内一円
14	弥彦村・弥彦の丘美術館	五十嵐七郎写真展-四季を彩る身近な風景	8月27日～9月25日 弥彦の丘美術館
15	日本写真家連盟	第35回「四季の彩り」展及び第11回「公募展」	令和5年2月12日～19日 東京都美術館
16	篠原誠二	篠原誠二写真展「HIROSHIMA」	8月6日～9月12日 芝公園衆国がアファト州イブアト市博物館
17	東京都	第2回「無電柱化」の日フォトコンテスト	募集：7/1～9/30、発表：11/10
18	公益財団法人さかた文化財団 土門拳記念館	第17回写真展「わたしのこの一枚」【協力】	2022年10月29日～11月14日 土門拳記念館
19	一般社団法人 日本現代写真家協会	JMPA 第3回インターネット	募集：10/25～11/30、発表：R5年2月20日
20	につぼん一大使たちの視線写真展実行委員会	につぼん一大使たちの視線2022写真展	10月6日～10日 六本木ヒルズ、沖縄、神戸、横浜、名古屋他へ、2023年6月まで
21	高等学校文化連盟全国写真専門部	第11回日韓中高校生フォトコンテスト【協力】	応募：6月1日～9月26日、写真展：2023年2月16日～22日 アデムトキョウ「リカ」
22	一般社団法人日本写真文化協会	「第69回全国展」フォトコンテスト	募集期間：12月8日～令和5年2月8日 5/28-6/4 東京都美術館、他巡回
23	NHK学園	第33回NHK学園生涯学習写真展	2023年2月17日～2月23日 富士フィルムフォトサロン東京
24	NPO 宋慶齢基金日中共同プロジェクト委員会 中国宋慶齢基金会	為了明天 明日のために 2023 日中青少年写真書画交流展	2022年12月12日～16日 多元文化会館
25	（一社）カメラ映像機器工業会	C P +（シーピープラス）2023【協力】	令和5年2月23日～26日 パシフィコ横浜 オンライン開催
26	名古屋姉妹友好都市協会	「名古屋市・メキシコ市姉妹都市提携45周年記念写真展～地球の裏側・メキシコはこんなところ～」	2023年1月17日～2月12日 名古屋セントラルパーク内 セントラルギャラリー

附属明細書

該当事項がないため、記載を省略しております。

以上